

番組審議会

第636回

令和2年3月

■審議会の構成

委員総数 10名

委員長 音 好 宏

副委員長 中 江 有 里

委 員 石 田 衣 良 江 澤 佐知子

尾 縣 貢 萱 野 稔 人

喜田村 洋 一 佐 藤 智 恵

藤 原 帰 一 水無田 気 流

TBSテレビ 佐々木 社 長

國 分 常務取締役

伊佐野 取締役

合 田 編成局長

本 田 報道局長

中 島 制作プロデューサー

福 間 担当デスク

中 山 編成考査局長

鈴 木 編成考査局視聴者サービス部長

岩 村 番組審議会事務局長

- 今回の審議会は、新型コロナウイルスの流行という状況を考慮し、一堂に会しての会合とせず、各委員が意見表明の書面を提出し、それをもとに意見を交換した。

■議事概要

(1) 審議事項

1) 「Nスタスペシャル

震災9年の真実～“想定外”から命を守れ」

3月11日放送

2) その他

(2) 報告事項

1) 2020年度上期の編成方針

(3) 事務局報告事項

1) 視聴者からの声について

2) 次回審議会の議題及び日程について

【委員の主な意見】

(「Nスタスペシャル 震災9年の真実～“想定外”から命を守れ」について)

- この日に特別番組を組むこと自体、社会的な意義が大きく、報道機関としての東日本大震災に対する姿勢が、明確に示されたものと受け止めた。震災関連番組は、視聴率に結びつきにくく、特に東日本大震災に関しては、関東以西でその傾向が強いと聞く。そのようななか、この特番をJNN全局が同時時間帯に放送したことは、災害報道に対するJNNの姿勢を示していた。来年は震災から10年だが、その節目で一区切りではなく、継続した報道を続けてほしい。
- 福島の「帰還困難区域」の現実を伝えるコーナーは、バランスがとれていた。廃炉作業がどのような難しさを抱えているか、エネルギー問題がいかに簡単な問題ではないのか、ということを展開し、奥行きのある内容になっていた。
- グラフィックが優れていた。たとえば「河川津波」を説明する地図のCGが、とてもわかりやすく、しかもその地図のどの地点で何が起きたかを映像で見

せてくれたので、「鳥の目、アリの目」の両方で理解することができた。この手法は普段のニュースや情報番組でもぜひ使ってほしい。

- 夜の森地区の、荒涼とした音も匂いもない街の様子が、衝撃的な切迫感で胸に迫った。映像の力と言う点では今回の白眉だった。
- 生放送ということもあるだろうが、スタジオは全体的に段取りっぽく感じた。コメンテーターなしで、井上、ホラン二人で回してもよかったのではないか。
- 陸前高田の父子の生きる姿に心を打たれた。9年間にわたり、父子に寄り添い続けた取材者の努力に敬意を表する。
- 被災者自身が撮影をした色々な画像が効果的だった。生の声が入っていて臨場感があり、怖さ、緊迫感が直接伝わってきた。災害の怖さ、被災者の苦しみなどを後世に伝えるため、このような映像をしっかりと管理して残していく必要がある。
- 東日本大震災を手掛かりとしながらも、その後の近年の各種の災害（豪雨、台風、地震、大規模停電、タワーマンション内のライフラインの崩壊）などを取り上げ、「想定外から命を守る」という切り口で、各種の危険と対策を的確に示していた。

* TBSでは番組審議会委員のご意見を真摯に受け止め、今後の番組内容の向上に活かしていく所存です。 (TBSテレビ番組審議会事務局)